

平成 28 年度事業計画

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

I 基本方針

当センター (GEC) は 1993 年の設立以来、緑のボランティアを育てる専門団体として、個人やグループをはじめ、行政、企業、学校などを対象に、多彩なプログラムを提供してきました。

今年度は、①「緑のふるさと協力隊」を事業の中心に据えながら、②短期間の農山村ボランティア活動や森林ボランティア活動の充実、③中国での新しい植林活動プログラムの構築、の 3 つを大きな柱として、社会のニーズに合わせた事業展開を実施させていきます。

特に「緑のふるさと協力隊」事業については、大学や専門学校などとの連携を強化させ、参加者増加を図っていきけるよう努めていきたいと考えています。

II 事業計画

1. 「緑のふるさと協力隊」事業

「緑のふるさと協力隊」は、農山村に興味をもつ若者が、地方自治体に一年間住民として暮らし地域活性化に携わるプログラムです。今年度は 23 年目を迎え、20 市町村に 20 名の隊員を派遣します。

(1) 平成 28 年度 (第 23 期) 派遣及び活動の実施

- 人数と市町村 20 市町村に 20 名 (男 10 名、女 10 名)
- 実施期間 4 月 6 日～3 月 19 日 (年間活動期間)
- 事前研修 4 月 6 日～4 月 13 日 (山梨県立ゆずりはら青少年自然の里)
- 中間研修 9 月 1 日～9 月 3 日 (後期に向けて・東京)
- 総括研修 3 月 16 日～3 月 19 日 (公開報告会・東京)
- 職員現地訪問 6 月から 7 月まで (活動の調整・打合せ)

(2) 受入先担当者会議の開催

- 開催…5 月 26 日 (木) ～27 日 (金) 1 泊 2 日 (東京)
- 内容…受入市町村担当者同士の情報交換及び省庁担当者との意見交換

(3) 地域別交流会及びフォーラムの開催

全国をいくつかのブロックに分けて、秋に (10 月～11 月頃) 1 泊 2 日で地域別交流会およびフォーラムを実施します。初日は、現役協力隊員や役場担当者らで交流会を行います。2 日目は参加者を拡大し、地域おこしに関心をもつ近隣の市町村や若者・学生たちにも参加を呼びかけ、ブロックフォーラムを開催します。

(4) 「緑のふるさと協力隊」関係団体との連携

- 「緑のふるさと協力隊」OBOG との協力連携
- その他、自治体や大学など

(5) 平成 29 年度 (第 24 期) 募集計画及び各種広報活動

- 募集人数…受入先自治体 40 市町村及び協力隊員 40 名の募集を実施
- 協力隊員募集…①各地説明会 (仙台、東京、名古屋、大阪、福岡) ②大学・専門学校説明会③短期農山村体験プログラムの開催 ④ポスター・チラシの配布 ⑤インターネット・マスコミなど
- 募集・選考…受入先募集は 11 月末・隊員募集は 12 月下旬締切り
隊員の面接選考は東京・大阪で 1 月に実施

2. 「森と農と緑」ボランティア活動支援事業

緑のボランティア活動へのニーズは、個人・団体・企業を問わず広がりを見せています。年間を通じて、とくに初心者のための支援・協力を進めます。

(1) 短期体験プログラム支援事業

- 短期農山村活動体験コース (若葉のふるさと協力隊)
4 泊 5 日 「緑のふるさと協力隊」派遣先を中心に全国 20 カ所 200 名程度
- 森と緑の活動体験コース (初心者教室)
1 講座 5 回実施×2 回 (1 回 30 名程度)

- (2) 森林ボランティア活動開催および支援協力事業
 - 森林ボランティア活動開催
 - ・赤沢（長野県） 5月、9月 計2回
 - ・三宅島（東京都） 6月、10月 計2回
 - ・湘南（神奈川県） 5月、7月、9月、11月 計4回
 - 富士山緑化応援隊・箱根 KIKORI の会・“やどりき水源林” 活動グループへの支援協力
- (3) 企業（社会貢献活動・CSR）体験・交流活動の支援協力
 - ・メタウォーター（奥多摩町）、沖電気工業（伊豆市）、電機連合（陸前高田市）
 - ・ECナビ、アールシーコア（BESS）への支援協力
 - ・新規企業の開拓
- (4) 各種展示会及びイベント参加
 - ・神奈川県平塚市緑化祭り 4月29日（金）
 - ・メーデー（代々木公園） 4月29日（金）
 - ・みどりとふれあうフェスティバル（日比谷公園） 5月14日（土）・15日（日）
 - ・中央区エコまつり 6月5日（日）
 - ・その他グローバルフェスタ、アイランダーなどのイベント出展
- (5) 「緑の学校」活動プログラム
 - ・緑の作品や教材を活かし、地域や学校へ出前授業の開催、受入
 - ・語り部活動
 - ・作品の貸し出し

3. 「日本・中国」緑化交流事業

- (1) 緑の親善大使活動
緑の親善大使世話人会と連携し、エジンホロ旗、重慶市、豊寧県の活動を推進
- (2) 企業参加プログラム
日本触媒（エジンホロ旗）、ローソン（重慶市）
- (3) 招聘活動
現地カウンターパートを日本に招聘し、交流を深める活動を展開
- (4) 「日中 21 世紀中国首都圏環境緑化」推進事業
「日中 21 世紀中国首都圏環境緑化」推進協議会への支援協力

4. 広報・PR 事業

- (1) 機関誌の発行
従来、機関誌「タマリスク」（隔月・奇数月）と会員向け情報誌「緑の通信」（隔月・偶数月）の 2 つを発行していましたが、この 2 つを統合し、年 6 回で発行します。
 - ・年間 6 回発行 カラー、2,000 部
- (2) 調査研究
特に「緑のふるさと協力隊」事業において、これまでの実績を取りまとめ、蓄積した資料や材料を分析して募集活動など事業の拡充を進めていきます。

Ⅲ. 組織・運営基盤の計画

- (1) 財政基盤の整備
会員の加入促進、事業収入の増額等、事前の財源確保に努力し、堅実な財政運営を実現していきます。とくに企業会員・寄付金増に力を入れ、財政の充実に努めます。
- (2) 共同活動の推進
 - 国・自治体及び関係機関・団体との共催事業や協力事業を積極的に推進します。
 - 各地の会員、事業参加者と連携し、展示会やセミナーなど協力活動を推進します。